



『五つの色は五大陸の人々が
「平和」をめざすという意』

ひろしま スポーツ推進委員

第82号

令和4年3月31日発行



発行責任者 広島市スポーツ推進委員協議会
会長 玉田 裕司
発行所 広島市中区国泰寺町一丁目4-15
(公財)広島市スポーツ協会事務局気付

長年の貢献に感謝を

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合表彰おめでとうございます!!

※ 功労者表彰 ※



安芸区 船越学区
則頭 悦子様

この度、栄えある功労者表彰を受賞しましたことは、大変うれしく、また、大変恐縮しております。

この受賞は、たくさんの方との出会いやご縁、そして、ご指導ご助言いただいた先輩方と、いつも温かく見守り、支え、お力添えいただく仲間のお陰と深く感謝しております。これからも仲間と一緒にスポーツの楽しさを伝えていけたらと思います。



東区 早稲田学区
丸橋 真由美様

この度、功労者表彰を頂けたのはスポーツ推進委員の同僚と家族の協力を得られ活動を続けることができたからと思っております。

最初は、何も分からない状態でしたが、研修などを重ね色々なことを学び実践できるようになりました。

これからも、学んだことを活かし、地域の皆様の健康増進のお役に立てよう頑張ります。

※ 30年表彰 ※



安佐北区 小内学区
玉田 裕司様

スポーツは、人々に夢と感動を与え、活力ある社会の形成に貢献するものとの思いから、地域スポーツの推進者として長年やってきました。

このことを評価されての受賞であると考えており大変誇らしく思っております。これからもスポーツが気軽に楽しめる生活の一部として定着するよう頑張っていこうと思っております。



安芸区 阿戸学区
山口 照美様

この度は30年表彰有難うございます。30年間を振り返ってみますと、やはりアジア大会での活動の思い出がとても深く今も忘れられない印象的なことばかりでした。

そして、よき先輩方と出会い、よき友達、よき行政の方との協力、そして地域の活動で活かされて来たことすべてに感謝です。

これからも地域に必要とされるよう頑張ります。

CONTENTS

2・3面 第56回 スポーツ推進委員研究大会

4面 ニュースポーツ紹介 ～ボッチャ～

広島市スポーツ推進委員
公式ホームページ

広島市スポーツ推進委員



第56回 スポーツ推進委員研究大会

「スポーツ推進委員としての意識向上」～さらなる飛躍に向けて～

[令和3年12月11日] 安芸区民文化センター ▶▶▶ 各区スポーツセンター・自宅

一昨年から流行の新型コロナウイルス感染症がまだ終息をみない中、研修部の熱意で今年は何とか開催にこぎつけましたが、withコロナAfterコロナ時代を見据えた初めての試みでWeb開催することになりました。開会行事、講演の様子は本会場からカメラで撮影しながら映像や音声を配信するハイブリッド方式で、各区のスポーツセンター会場や自宅へと配信されました。



安佐北区



安佐南区



佐伯区



西区



中区



南区



東区



安芸区

講演 テーマ「今こそスポーツの力が必要だ！」

【講師】一般財団法人どんぐり財団専務理事 関口 昌和氏

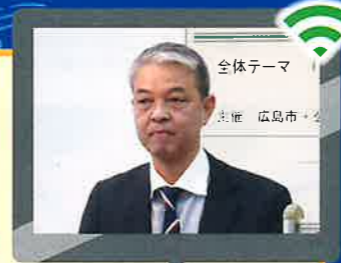
北広島町で町の保健課と連携して健康寿命の延伸を図るため「元気づくりシステム」を実践しておられる関口氏の熱い思いを聴かせていただきました。誰もが願う健康づくりが一人一人のものになるためにはどんな仕組みを提案し、確実に地域の財産となっているお話はとてもワクワクして聴き入りました。

スポーツジムや体操教室など意識をもって始めた人でも、従来の指導者のもとに参加者が通い指導し続けてもらう方式では継続が難しくなる現実を踏まえ、継続可能なこの元気づくりシステムでは、立ち上げの時から活動の頻度、活動の内容、職員が関わる期間や内容、関わり方を決めて半年間でこのシステムを仕組化するのだそうです。その結果設置された元気クラブは次々と増え、高齢者が心

身ともに元気になっているそうです。

住民が主体となり自主的に活動を継続しているのは、近隣住民が集まることで仲間づくりが進み、休んだ人の様子を気にかけてあげることが支えあ地域づくりにもつながり、指導できる人を育てるのでなく、元気リーダーというメンバーとの連絡などお世話係を育てていることにポイントがありそうだと感じました。

今後さらに進む高齢化社会の中誰もが願う健康づくりをきっかけに、暮らしているその場所で元気に生活し続けていける仕組みがもっと多くの地域で展開できるようになるには、高齢者自身だけでなく、支えあ地域全体の他の世代も関心を持つことだと思いました。



向谷 研修部長

研修部では昨年もコロナ禍での開催を目標に、家での過ごし方として家庭でできる運動の紹介など考えてきました。今年も長く続くコロナ禍で研究大会は開催できるのか、どんな方法なら可能なのか、内容はどうかを考えてきました。何があっても開催できる方法でやろう、そして今年度はWebでの開催することに至りました。対面でのコミュニケーションをとることが難しくなり、どうやったら対面に近いコミュニケーションを取ることができるのかを、まずわれわれ推進委員がこのWeb開催を体験することで、今後各地区での活動に展開されていくことを願っています。



研究大会を終えて(講評)

広島市スポーツ推進委員協議会理事 (広島経済大学 経営学部 スポーツ経営学科 教授) 松本 耕二



ウィズ・コロナの時代、新しい生活様式を始めた方も少なくないと思います。変わらざるを得ないといった方が的を射ているでしょうか。

今年度の研究大会は、研修部会と事務局の皆様のご尽力により、主会場と地区会場、また個人をオンラインで繋ぐ開催となり、私たちにとって新しい活動様式の一歩を踏み出しました。

主会場にはビデオカメラやノートPCなどの機材がテレビ局並みに配備され、三密を避けた開会行事はシンプル&スマートでした。その後の関口氏の講演「今こそスポーツの力が必要だ!」は、昨今のともすれば暗くなりがちの中を明るく照らすスポーツ活動による喜びのご紹介と多くの示唆をいただきました。さまざまな活動が中止や延期に追いやられる状況の中で「できるかでき

ないかではなく、やるかやらないかだ!」の言葉には安全を最大限に配慮し実施されてこられた力強さがあり、私たちにも英断を仰ぐものでもありました。「地域に根ざし、地域を知っている強みを活かした活動を地域のみなさんに」には、改めて私たちの存在意義と価値を再確認させていただきました。

今回の研究大会を振り返り、三密回避を前提としたオンライン方式での実施は大きな一歩であったと思います。今後、さらにステップ・アップさせ、どのように活用していくかが問われます。人とひととの繋がりがさらに希求される今日に、私たちが為すべき営みを再考する研究大会でした。皆さんはどのようにお感じになりましたでしょうか。

WEBでの研修は、いかがでしたか

	1:非常に良かった	2	3	4	5:非常に悪かった
WEB参加者	44	44	28	4	5
会場参加者	22	27	24	4	1
全体	66	71	52	8	6
	33%	35%	26%	4%	3%

今後、WEBでの会議や事業を実施したいと思いますか

	1:非常に思う	2	3	4	5:全く思わない
WEB参加者	35	24	58	6	2
会場参加者	6	15	42	13	2
全体	41	39	100	19	4
	20%	19%	49%	9%	2%

今後、WEBでの事業が開催された場合、WEBで参加しますか

	する	しない	わからない
WEB参加者	112	2	11
会場参加者	47	7	23
全体	159	9	34
	79%	4%	17%

アンケート結果より



準備OK
お願いします!!

準備中
しばらくお待ちください

ニュースポーツ紹介



ボッチャとは？

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。

カーリングのように、相手のボールを弾いたりして、自分が優位に立てるよう位置取りをしていますが、的も弾いて移動させることができるため、カーリングとは一味違う戦略、魅力がある競技です。



ボッチャは1984年からパラリンピックの正式競技として行われています。男女の区別はなく、障がいの程度でクラス分けをして順位を競います。選手たちは、重度の脳性まひなど四肢に障がいがあります。見た目には激しい運動はありませんが、知的な戦略とそれを実行するための技術力、集中力がこの競技では求められます。

©日本パラスポーツ協会

試合の流れ

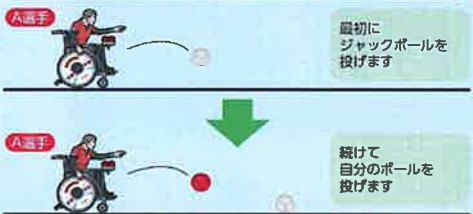
ボッチャはどれだけボールを的に近づけることができるかを競うシンプルなルールです。ここではどのように試合が進むかを説明します。

1 両選手（ペアやチーム）が6個ずつのボールを使用します



試合開始となる第1エンドは常に赤ボールが先攻となります。（以降、偶数エンドは青ボール、奇数エンドは赤ボールが先攻）

2 先攻側が的となるジャックボールを投げ、続けて1投目の投球を行います



3 後攻側が最初の投球を行います



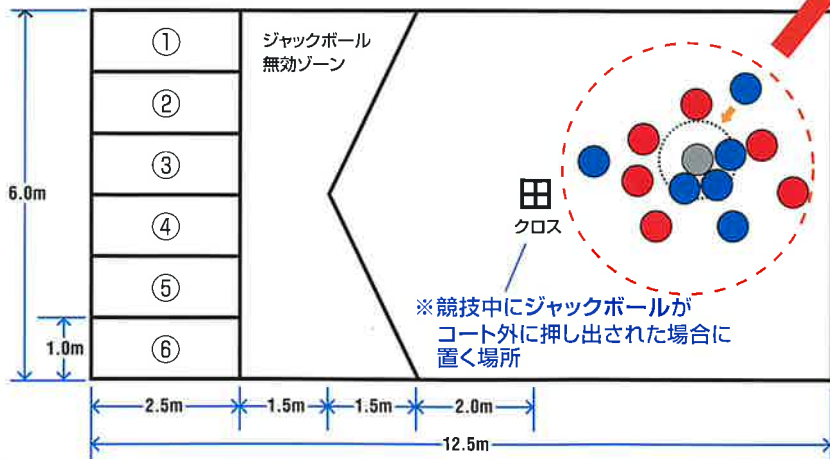
©日本パラスポーツ協会

以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球をし、赤、青ともに6球ずつ投げ終わった時点で得点を計算。

使用するコート、得点計算方法（例）

【ボッチャ公式競技用コート】

- 競技は、12.5m×6m のコートで行われます。
- 選手は 2.5m×1m のスローインボックス内でプレーをします。
- 個人戦ではボックス③④（③が赤、④が青）、ペア戦ではボックス②～⑤（②④が赤、③⑤が青）、チーム戦ではボックス①～⑥（①③⑤が赤、②④⑥が青）を使用します。



解説

エンド終了時、ジャックボールにもっとも近いボールを投げた側にのみ得点が入ります。相手側のジャックボールにもっとも近いボールよりもジャックボールに近いボール1個につき、1点が与えられます。

左図の場合、青の方が赤よりも3球ジャックボールに近いので、3点が入ります。

この一連の流れを1エンドとして個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンド行い、合計得点が多いほうが勝者となります。

問い合わせ

ボッチャに興味がある方は…
日本ボッチャ協会 で検索

編集後記

新型コロナウイルスの猛威により、今年度もスポーツ推進委員の活動が思うようにできない状況が続く中、広報紙第82号を発行することができました。

“新しい活動様式”の中で感染症と向き合い、初めてWeb開催さ

れた研究大会では、広報部も異例の現地取材を敢行し広く皆さまに活動を知ってもらえるように頑張っております。

最後になりましたが、本号発行にあたりご協力いただきました関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。 広報部一同